

癌化学療法名 大腸癌 パニツムマブ(2週間間隔)+m-FOLFOX6療法(100mL用)

実施部署	外来・入院	1クール日数	14day	承認済 2010.7.13
番号	抗がん剤名・略称	1日投与量	投与方法	投与日
1	パニツムマブ:ベクティビックス	6mg/kg	div.(点滴静注)	day1
2	オキサリプラチン:エルプラット	85mg/m ²	div.(点滴静注)	day1
3	LV:レボホリナート	200mg/m ²	div.(点滴静注)	day1
4	5-FU	400mg/m ²	div.(点滴静注)	day1
5	5-FU	2,400mg/m ²	持続静注	day1,2
コメント	・ベクティビックスは、KRAS遺伝子野生型に適応。 ・ベクティビックスの希釈液は生理食塩液100mLを使用し、60分投与とする ・投与にあたっては、インラインフィルター(0.2又は0.22ミクロン)を使用する。当院ではPVCフリー輸液セットを使用。			

投与日	薬剤名	ルート	時間
day1	① ベクティビックス6mg/kg + 生食100mL (生食20mLでラインをフラッシュ)	IVH	60分
	② グラニセトロン1mg/バッグ + デキサート	div.	30分
	③ レボホリナート200mg/m² + 5%ブドウ糖250mL (③と④は同時投与)	div.	2時間
	④ エルプラット85mg/m² + 5%ブドウ糖 250mL (③と④は同時投与)	div.	2時間
	⑤ 5-FU400mg/m² + 5%ブドウ糖100mL (輸液ポンプはずして全開で)	急速静注	約5分
day1~2	⑥ 5-FU2,400mg/m² + 5%ブドウ糖100mL (全量100mLにしてバクスターインフューザー使用)	持続静注	46時間
day3	① ヘパリンNaロック用100単位 5mL		

<皮膚障害対策>

ベクティビックスは、高頻度に皮膚障害が発現します。保湿剤やステロイド剤(外用)、抗生物質(内服)などの予防的投与が皮膚障害の発現頻度の低下に繋がることが報告されています。

① 処方開始時(症状が出る前に処方)・・・14日分を目安

(顔) キンダベート軟膏 5g 2本 1日2回皮疹部に薄く塗布 → **症状が出たときに塗布**

(体) マイザー軟膏 5g 2本 1日2回皮疹部に塗布 → **症状が出たときに塗布**

ヒルドイドソフト軟膏0.3% 25g 2本 皮膚乾燥部に適宜塗布 → **毎日塗布する(症状発現・悪化の予防)**

② 皮疹増悪時(中等度)

上記①の処方にプラスで・・・

ミノマイシン錠50mg 2錠 1日1回 14日分

アレグラ錠60mg 2錠 1日2回 14日分

③ 皮疹増悪時(重症の追加処方)

中等度②の処方に加えて・・・

プレドニゾロン錠5mg 2錠 1日1回朝食後 14日分

*** ②、③の症状が発現した時は、皮膚科受診を勧めてください。**